

高島平ヘリテージプロジェクト

高島平

ヘリテージ

50

高島平を
かたちづくってきた
50の都市空間

定価: 1000円(税別)

オールカラー/日本語・英語併記

高島平の歴史と魅力が詰まった1冊

購入したい方は

- ・高島平地域内の書店で販売予定です。
- ・発行元(地域貢献会社ここ)にて、ネット販売いたします(送料別途)。
<https://chikikokengaishaniko.hp.gogo.jp/pc/index.html>
※右のQRコードよりリンク
- ・UDCTakのイベント時にも販売いたします。



高島平ヘリテージ50の刊行によせて

東京大学大学院工学系研究科准教授 中島直人 (UDCTakディレクター)



高島平ヘリテージとは

「高島平」という地名が誕生したのは、徳丸田んぼ、赤塚田んぼと呼ばれていた水田地帯を宅地に転換していく土地区画整理事業が進行中の1969年3月1日のことでした。その「高島平」誕生から半世紀が経過し、高島平は少子・高齢化、諸施設の老朽化に伴う課題を抱えています。

2015年10月に板橋区は高島平再生の方向性を示す「高島平地域グランドデザイン」を策定しました。そして、この構想に基づくまちづくりを推進する民・学・公の連携組織として、2016年11月に「アーバンデザインセンター高島平」(UDCTak)が設立されました。

「高島平地域グランドデザイン」に基づき、高島平が大きく再生へ向けて動き出しているときに大事なことは、再生と同時に「まち」の成熟を図ることです。本書のもととなった「高島平ヘリテージプロジェクト」は、これまでにこの高島平で生み出されてきた都市空間(建築や構造物を含む)や地域文脈の中で、将来のまちづくりにおいて地域の資源、資産として継承していくべきもの(=ヘリテージ)は何かについて考え、そしてまちづくりへの活用を実際に試みてい

くことを目的にスタートしました。なお、このプロジェクトは、UDCTakが東京大学都市デザイン研究室や高島平観光協会(仮)をはじめとする地域住民有志とともに進めてきたものです。

本書は「高島平」誕生から半世紀、これからの時代に向けた地域再生がスタートするというタイミングで、高島平の都市空間を歴史的な視点から読み解くことを目的として編まれました。これからのまちづくりに資する「高島平ヘリテージ」(ヘリテージ=今後の継承が期待される地域資源)としてとりあげる50の都市空間は、大きく4つに分けることができます。

- 1 土地区画整理事業以前からあった自然の要素や集落の構造を継承した都市空間
- 2 様々な設計・計画意図が込められた土地区画整理事業や団地計画によって生み出された都市空間
- 3 住民ニーズや住民運動、地権者の意向に基づいて、この50年の間に徐々に付け加えられてきた都市空間
- 4 既存施設のつくりかえ、柔軟な新しい使い方などにより、これまでにはなかった価値を生み出しつつある都市空間

こうした多様な来歴をもった都市空間が折り重なって、現在の高島平の個性、豊かさ、面白さを生み出しています。改めて、歴史的な視点で高島平を見つめ直してみると、本書で紹介する50の都市空間以外にも、たくさんの個性的で魅力的な「高島平ヘリテージ」が見つかるはずです。



本書の内容の一部

ヘリテージを未来にひきつぐために

2019年3月に開催した高島平50周年アニバーサリーイベントでは、50年を振り返りつつ、高島平の現在に関する理解、そして未来に向けた展望を見出すことを期待していました。イベントの一環として実施した展示「高島平ヘリテージ 高島平をかたちづくってきた50の都市空間」(2019年1月21日～3月1日於板橋区役所ギャラリーモール、2019年3月2日～3日於高島平区民館)は、そうした思いに端を発しています。一方で、アニバーサリーイベントに際して、高島平地域で活動している様々な組織、あるいはそれらのキーパーソンたちに声がけをし、企画そのものを一緒に組み立てていく過程で、コンセプトはまちを「つくった」という計画者の視点からまちを「生きている」という生活者の視点へと展開され、具体化していきました。最終的にはより多くの方に開かれた場としての「文化祭」が見立てのコンセプトとして共有され、コミュニティビジネス団体から地域ダンスサークルまで、高島平という地域で展開される活動の総覧というかたちのイベントとなりました。純粋な計画都市である高島平において、UDCTakとして都市デザインを展開しようとして出会ったのは、地域の中にすでに多発的、そして自律的に展開されている地域課題への地域住民による取り組みの数々であり、そこで生き生きと活動する人たちでした。

高島平に限らず、近年、コミュニティビジネスやローカルディベロッパーなどのかたちで都市や地域に深く入っていくビジネスパーソンや、様々な専門家、例えば、環境・エネルギー、都市農業、ものづくり、教育、政治・行政、アート・文化、社会福祉、宗教家たち

が都市や地域で活動を起し、その環境づくりにたずさわるケースが増えています。また、アクティブな生活者として、地域で多くの人を巻き込みながら、ことを起し、場を創造していく人もいます。おそらく、こうした人たちを数多く抱える都市こそが、現在、そしてこれからの様々な社会的変動を受けとめ、課題を解決し、生き生きとしたそのありようを維持し続けられるのではないのでしょうか。魅力的なまちには魅力的な人がたくさんいる、という経験則はおそらく正しいのだと思います。

果たしてわずか50年という時間がまちの成熟にとって十分なのかどうか、一般論としては語れませんが、今後も高島平がそのような人たちを生み出し続ける魅力的なまちとなるためには、地域の資源、資産として継承していくべきものを共有し、そして将来のまちづくりに活用していく動きをつくりだしていくことが大切です。

まずは本書を片手に、多くの方に、実際にまちを歩き、高島平の都市空間を再発見していただいたいと考えております。それが、高島平再生の第一歩なのです。

50周年アニバーサリーイベントを契機として、2019年度からはヘリテージを実際に体験することを目的として、まちの調査を組み込んだ主体性あるまちあるきと場所の活用や再生の議論をセットにした「Urban Design Walk and Talk」を開始しています。高島平の過去、現在、未来をつなげる活動を、地域の方々とともに進めていきたいと考えています。



50周年イベントでの展示の様子（2019年3月）



Urban Design Walk and Talk の様子（2020年2月）

本書に掲載するヘリテージ一覧

- 01 高島秋帆と弁天塚
Shuhan Takashima and Bentenzuka
- 02 橋の名が伝える村の構造
Village in the Names of the Bridge
- 03 崖上から降りてくる坂道たち
Various Slopes Coming Down from the Cliff
- 04 田遊びに残る赤塚・徳丸たんぼの記憶
Memories of Rice Field Remain in Ritual
- 05 荒川に注いでいた前谷津川
The Maeyatsu-gawa towards the Arakawa
- 06 境界としての新河岸川
The Shingashi-gawa River as a Boundary
- 07 駅前スーパーに抱え込まれた蓮根川
The Hasune-gawa River in the supermarket
- 08 もともとの道を活かした街路
Streets Utilizing the Original Roads
- 09 定点としての大東文化大学
Daito Bunka University as a Fixed Point
- 10 ランドマークとしての板橋清掃工場
Itabashi Incineration Plant as a Landmark
- 11 板橋土地区画整理事業と9つの高島平
Land Readjustment Project and Nine Faces
- 12 高島平が引き寄せた地下鉄6号線
The Metropolitan Subway Line 6
- 13 条件変更から生まれた高層団地景観
High-rise Danchi Landscape
- 14 団地生活の中心としての広場
Plaza as the Center of Danchi Life
- 15 団地の住棟、設計の工夫
Buildings of Danchi, Design Ingenuity
- 16 二つの顔を持つ赤塚公園
Two Faces of Akatsuka Park
- 17 緩衝地帯としての高島平緑地
Takashimadaira Green as a Buffer Zone
- 18 車両基地の上の西台団地
The Nishidai Danchi above the Depot
- 19 Y字が支える首都高速5号線
Y-shaped Piers of Metropolitan Expressway
- 20 もう一つの顔、トラックターミナルと団地倉庫
Another Aspect of Takashimadaira, Truck Terminal and Warehouse
- 21 板橋市場＝戦後初の大型青果市場
Itabashi Vegetable and Fruit Market
- 22 五丁目…「板橋の田園調布、自由ヶ丘」
"Den-en-chofu, Jiyugaoka of Itabashi"
- 23 三園一丁目と三園陸橋
Misono 1-chome and Misono Overpass
- 24 草創期の高島平型名建築
Takashimadaira-type Architecture
- 25 スタイリッシュな社宅／マンション
Stylish Company Houses / Apartments
- 26 丸屋根の高島平駅舎
Round Roof of the Takashimadaira Station
- 27 向こう岸のガスタンク
Gas Tanks beside Shingashi-gawa River
- 28 それでも足りなかった保育園
Nursery Schools in Short Supply
- 29 「農」を引き継ぐ区民農園
Community Farms, Succeeding "Agriculture"
- 30 高島平ロードレース、駆け抜ける都市空間
Takashimadaira as a Running Race Course
- 31 「みんなが決めた愛称」を持つ広場・通り
Plazas and Streets Named by Everyone
- 32 まちとともに育ってきた樹木たち
Trees that Grew up with the Town
- 33 まちのために使われてきた一等地
The Prime Location of the Town
- 34 区民館とコミュニティ道路
City Center and Community Road
- 35 盛り場としての高島平商店街
Shopping Street as an Amusement Area
- 36 住民運動の成果としての高島平図書館
A Story of the Takashimadaira Library
- 37 自主管理歩道が連なる街並み
Townscape with Self-managed Walkways
- 38 西高島平駅の三層立体交差
Three-level Intersection
- 39 平らなまちの駐輪場
Bicycle Parking Lots in a Town on the Plains
- 40 暗渠化によって生まれた前谷津川緑道
Maeyatsu-gawa Green Road
- 41 六の橋の六差路
Six-way Intersection at Rokuno-hashu
- 42 高二小校門前の小さな親切空間
A Small Space in front of a School
- 43 おまつりの舞台としてのまち
The Town as a Festival Venue
- 44 防災の要、高島平一号幹線
The Takashimadaira Ichi-gou Trunk Line
- 45 遺跡の上に建つショッピングセンター
A Shopping Center atop the Ruins
- 46 議論の末の立体駐車場
Multi-level Parking Lots After Discussions
- 47 板橋十景のケヤキ並木
The Zelkova Trees, One of Great Views
- 48 団地ストックのリノベーション
Renovation of Danchi Housing Estate
- 49 福祉・コミュニティのための様々な場所
Various Places for Welfare and Community
- 50 使いこなしの都市空間：
マルシェとグリーンテラス
New Ways to Use Existing Spaces

UDCTak

アーバンデザインセンター高島平

問い合わせ先 ▶ UDCTak事務局

〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目 66 番 1 号
都市整備部 高島平ランドデザイン担当課
電話番号：03-3579-2183 FAX 番号：03-3579-5437
Eメール：info@udctak.jp

facebook ▶ facebook で最新情報を発信しています。
「UDCTak」で検索し、 をクリック！

Homepage ▶ <https://udctak.jp/>

